

水道事業管理者就任



やまもと かつみ
山本 克己 (63歳)
＜西の浜第二＞

略歴

昭和43年兵庫県立姫路工業大学卒業後、宇部興産株式会社入社、平成17年同社退職。「水道事業管理者の公募」により、応募総数22名の中から11月1日付で水道事業管理者に任命される。

とりわけ官庁は、変化に対してスピード感がなく、前例踏襲といったところが見て取れますが、目標数値を掲げ、それを確実にフォローしていきながら改善していきます。水道事業でいえば、経年化管路率等の数値すべてを全国平均より上にしていきたいと思っています。

今後、料金収入が増加することは難しく、設備は更新しなければならぬ時期にきており、如何に費用を抑えるかがポイントになりますが、水道局職員一同知恵を絞って取り組んでいきます。市民のみなさんから信頼され慕われる水道局をめざしますので、どうぞよろしくお願いします。

市長から市民のみなさんへ

102

市長 白井博文

ふるさと納税を通じて

昨年4月から「ふるさと納税制度」がスタートしました。これは、例えば都会で暮らしている人が、生まれ育った自分のふるさとに寄附すれば、それを住所地での納税とみなそうという制度で、本市では「サポート寄附」と名付けています。「広報さんようおのだ」に小さくではありますが「サポート寄附」の累計(件数と金額)を載せています。お気づきでしょうか。

先日、福岡県にお住まいの方から電話がありました。「市からまた手紙が届きました。ふるさとの近況が分かり、とても嬉しいです。金額は僅かですが、元気なうちは続けますので、どうぞお役に立ててください。」担当課では、毎月、職員が輪番で手紙(礼状)を書き、「広報さんようおのだ」の1日号と15日号、それに地元新聞を1部同封して、「サポート寄附」をしてくださった全国のみなさんに送っています。感謝の気持ちを伝えたい、そして広報紙等で、ふるさとを離れて暮らしている方の望郷の想いを少しは慰めてあげられるのでは…。地元の特産品を送る事例などと比較して大変地味ではありますが、これこそ「サポート寄附」を通じてふるさととの絆を

深めていただける取組みのように思えます。市民のみなさんは、どのようにお感じになりますか。

職場レポートを提出してもらいました

最近、企業局(病院と水道)を除く課長級以上の全管理職から職場レポートを提出してもらいました。職場の現状や課題、問題点などについて改めて報告を受け、各部署において、どのような問題があり、どのように取り組んでいるのか、どのような問題に苦勞しているのかなど、市長として掌握不十分なところを埋め合わせ、今後の市政運営に役立てることが目的です。また、日頃、市長との協議の機会の少ない管理職には、市長へのメッセージとしても利用してもらっています。いろいろな問題点が出てきましたが、一人ひとりの管理職を孤立させず、横の連携を密にして、市役所本来の機能が十分に果たせるよう、市民のみなさんの期待に応えていきたいと考えます。



対話の日

【19:00から】

11月26日(木) 厚陽団地自治会館